

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（文学）	氏名	陳林
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 中国沿海部内陸農村における就業構造の再編に関する地理学的研究			
論文審査担当者			
主査	教授	岡橋	秀典
審査委員	教授	奥村	晃史
審査委員	教授	友澤	和夫
審査委員	教授	古瀬	清秀
審査委員	准教授	後藤	秀昭
審査委員	教育学研究科教授	由井	義通
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、中国における農村の変貌とそのメカニズムについて、福建省の内陸農村を対象として実証的に考察したものである。中国では急速な経済成長の下で地域間の経済的格差の拡大がみられるが、特に多くの農村では「三農問題」（農業の低生産性、農村の荒廃、農民の貧困）に代表される低開発問題が深刻化している。しかし、その地域の実態の把握は未だ十分ではなく、現地調査に基づく実証研究の蓄積が求められる。本研究はこのような課題に応えるものであり、従来の沿海・内陸という2地域区分を越えて沿海内陸部の農村に焦点を当てる点、就業構造を軸に農村の変貌を捉えようとする点に独自性が認められる。</p> <p>本論文は、序論、本論としての4章、結論によって構成される。</p> <p>序論では、農村労働力の移動、農業の再編、農村地域の経済発展の三つに分けて先行研究を検討し、地域的多様性、内陸農村の経済発展、就業構造の再編に留意することを課題として掲げる。それをふまえて本研究の方法論を検討し、就業構造を軸とした研究の枠組みを提示する。</p> <p>第1章では、中国全土および福建省を対象に、統計資料を用いて農村経済発展の動向を把握し、都市化、工業化との関係を考察する。東部沿海地域に含まれ経済発展をみせる福建省においても、沿岸部と内陸部では大きな差異がみられることを明らかにしている。</p> <p>第2章から第4章は、この地域の就業構造に大きな影響を与えた、都市への出稼ぎ労働、野菜産地の形成による農業就業、工業化による雇用にそれぞれ焦点を当て、実証的な検討を行っている。</p> <p>第2章では、農村からの出稼ぎ労働の特性について、福建省内陸地域の一農村を事例として実証的に検討する。出稼ぎ労働者の増加とその年齢層の拡大、省内外の経済開放都市への移動、製造業や飲食・宿泊業への就業先の集中を明らかにするとともに、新たな傾向として、若年層における都市での長期滞在や安定的収入への指向、母村の農業への負の影響などにも言及している。</p> <p>第3章では、福建省内陸地域の1農村を対象に、近年における野菜生産の拡大とその要因、農家の就業構造への影響について考察する。この地域では、交通条件の改善、産地市場の設立により2000年代に入って野菜生産が拡大し、農家の就業に大きな影響を与えてきた。野菜生産の担い手の中心は中年層であり、若年層は都市部での出稼ぎ就業を未だ継続していること、野菜栽培の影響は農家の経営規模により異なるが、女性就業機会の増加や帰還者の野菜栽培従事といった新たな動きをもたらしていることを指摘している。</p>			

第4章では、同じく福建省内陸地域を対象に、近年急激な発展を遂げている郷鎮企業の特徴ならびに、それが農家の就業構造に与える影響を検討する。内陸地域では農村工業の発展レベルは高くないものの、農林業資源活用型の工業が発展をとげ、農家に新たな就業機会を提供している。大規模郷鎮企業では従来と比べて幅広い年齢層の労働力を雇用し、安定就業層の一部で農業から離脱する傾向がみられること、中年層の多くは依然として農業に従事し、この地域の農業を支えていることが指摘されている。

結論では、2000年代の福建省内陸農村において、経済発展が就業機会の増加と多様化をもたらしたこと、従来の出稼ぎ就業に加えて、商業的農業の発展や郷鎮企業の展開がそれに寄与したことを指摘する。その結果、「三農問題」の緩和がもたらされたとの見解も提示している。

以上のように、本論文は、現代中国農村の変貌について、丹念な地域調査と地理学的な枠組みにもとづき、その再編成の過程を明らかにした労作である。理論構築面でやや課題が残るが、多くの貴重な知見を新たに提示しており、現代中国の農業・農村問題研究に資する重要な論文と評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。